

## 平成 26 年度 記者懇談会（第 9 回）の記録

日 時 平成 26 年 12 月 22 日（月）午後 2 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 7 人

同席者 阿部副市長、上谷副市長、総務部長、環境部長

次 第 1 冬の防災訓練の実施について

2 平成 27 年 1 月からのごみの分別の変更について

3 その他について

### 1 冬の防災訓練の実施について

#### 説明内容

（市長）

最初に、冬の防災訓練の実施について、でございます。

冬期間の災害時にかかる避難所生活などを体験することにより、防災意識の向上を目的として、冬期に大地震が発生した状況を想定して、冬の防災訓練を実施いたします。これは、冬の防災訓練は、初めての実施になります。従いまして行政にとりましても、冬期間の避難所の設営ですとか避難所の運営の中でどういう課題が出てくるのか、そういうことを市民の皆さまにもいろいろと見ていただいて、私どもと一緒に参加をしながら経験していただき次に生かしていくということを目的としております。

日時は、1 月 17 日土曜日の午後 1 時から 4 時まで、中央小学校が会場となります。

訓練の内容でございますが、避難所生活の体験といたしまして、参加いただける方を「支援を受けるグループ」と「支援を行うグループ」に分けさせていただいて、模擬体験、それから冬の避難所での寒さ体験、これは資料にもありますように、大地震の発生により、電気・水道・暖房が停止した状況を想定しての訓練となりますので、避難所での寒さ体験、防災に関する意識の向上としては、家庭での日ごろからの備え、あるいは避難行動のあり方、そして市の備蓄内容の説明と非常食の試食（アルファ米や缶入りパン）を行う予定としております。

先ほど、申し上げましたとおり、夏には災害を想定した訓練は実施をしておりますけれども、冬に防災訓練を実施するというのは初めての試みでございます。

冬期間の避難所での生活を体験することにより、市民自らの防災意識の向上と、市が行う防災対策の推進に資する訓練にしたいというふうに考えている次第でございます。

なお参加いただける方の募集は、広報 1 月号や市ホームページで行いまして、1 月 9 日金曜日まで受け付けをしたい、というふうに考えています。

#### 質疑応答

（読売新聞）

これは一般公募して行うということですか。それとも関係機関も参加するのでしょうか。

**(市長)**

今回は市の単独での訓練となります。避難所の設営と避難所生活の体験ということで、市民の方についてはお申し込みをいただいて参加していただく形になります。

**(読売新聞)**

市民は基本的には体験する側で、市側はいろいろと設営したり準備したりということのでいいのでしょうか。

**(市長)**

市側が設営したりしますが、市民の方も支援される側と支援する側と、いろんな役割がありますので、そういったことも体験できれば、というふうに考えています。

**(読売新聞)**

人数的な規模はどれぐらいを想定しているのでしょうか。

**(市長)**

市民の皆さまには 30～50 名の参加をいただきたい、と考えています。

**(毎日新聞)**

それは両方合せてですか。例えば支援される方とボランティア役の方なんかがいると思うのですが。

**(総務部長)**

市民の参加人数で想定しています。

**(読売新聞)**

想定は地震になっているんですけど、先日、ここはエアポケットのように何もなかったんですけども、暴風雪というのもありますので、そのあたりの想定を今回はしないのでしょうか。

**(市長)**

まずは地震ですね。また状況に応じて、今後、災害想定はいろいろと条件を変えて実施していきたいと思っています。

ライフラインがすべて止まることに関しては、地震が今のところ一番懸念されます。暴風雪の場合は電気が止まるということになるでしょうから。

## 2 平成 27 年 1 月からのごみの分別の変更について

### 説明内容

**(市長)**

それでは 2 点目です。先週 18 日に、新しいごみ処分場を公開させていただいたところでございますけれども、いよいよ来年 1 月から、焼却施設が試験稼働することになりました。

これに合わせまして、ごみの分別をもう承知のこととは思いますが、大幅に変更することにしています。

現在の焼却炉は、1 日当たり 2 基で 9.6 トンのごみを燃やす能力です。そのため「燃やせるごみ」は、もともと、自然にやさしい処理ということで、無理に助燃剤を使って燃やすということをしなくて、基本的に燃えるもの、ですから燃やせるごみは、紙くず・木くず・糸くずに限定しておりますけれども、新しい焼却炉につきましては、

24 時間連続運転、排ガス等も規制値以下におさえた上で、1 日当たり 2 基で 100 トンのごみを燃やすこととなります。

このことによりまして、現在の「燃やせるごみ」に加えまして、これまで「燃やせないごみ」として、そのまま破碎、埋め立て処理していた容器包装以外のプラスチック、衣類、皮革製品、紙おむつ、生ごみ等も「燃やせるごみ」として分別し、衛生的な処理をすることになります。

従いまして「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」の大幅な分別の変更が行われることとなりますし、またそのことに併せまして、収集日、収集回数も変更となります。

このため市は、ごみの種類ごとの収集日を記載いたしました「収集日カレンダー」を作成し、全世帯に配布をいたしました。

また、1 月からの分別の変更に加えまして、来年の 4 月からは、ごみの有料化も実施をいたします。有料化の実施にあたって、ほかの市では、ごみの分別までは変えずに有料化を実施するところがほとんどなのですが、今回は焼却炉の性能が大きく変わるといふことで、どうしても大きな分別変更が必要となります。

そのため、分別の詳しい説明や有料化後のごみの出し方、さらには、ごみの分別辞典を備えました、「分別ガイドブック」も全世帯に配布したところでございます。

これらと併せまして、市民の皆さまへより一層の周知をはかるため、新しいごみ出しルールの説明会を開催しているほか、イベント等での啓発も行っております。12 月 1 日から 6 日までの間におきましては、延べ 1,196 人の職員の参加で、1,230 カ所のごみステーションで分別変更の啓発を行いました。市民の皆さまに直接声をかけまして、その際には、「ごみのよりよい始末を進める市民会議」の皆さまと町会の皆さまにもご協力いただいたところでございます。

12 月 21 日現在の啓発人数でございますが、説明会の参加者 4,887 人、イベントやごみステーションでの啓発 3,436 人、合わせますと 8,323 人というような状況でございます。

市といたしましては、今後も、きめ細やかな周知・啓発を繰り返し行ってまいりますが、1 月からの分別変更、さらには、4 月からのごみの有料化が円滑に進むよう、市民の皆様のご理解とご協力をぜひお願いしたいと考えている次第でございます。

#### **質疑応答**

なし

### **3 その他について（記者からの質問）**

#### **質疑応答**

##### **（北海道新聞）**

先日の議会で、駒澤大学附属岩見沢高校の跡地取得について議会で議決になったと思うんですが、本契約というのはいつになるのでしょうか。

**(市長)**

契約は年内。議会で議決いただいて、議決の報告をいただいた後、速やかに契約の手続きに入っています。

**(北海道新聞)**

まだこれからでしょうか。

**(市長)**

基本合意の中で議決後速やかに、ということですので19日付で行っています。議決結果の報告を受けた後ただちにということと統一していますので。

**(北海道新聞)**

利活用について、先月の委員会の中でも話が出ていたんですけども、これまで、学校給食の調理所からのアクセス道路っていう点では具体的な候補地でこういう使い方もあるということであがっていたんですけども、利活用の、14ヘクタールという大きな土地ですので、基本的な考え方っていうものを教えていただきたいのんですけども。

**(市長)**

周辺の方々の利便性の向上も十分念頭に置いた中で、基本的には公共施設の代替用地を中心に考えていくことになると思います。購入した後に責任を持ってできるだけ速やかに、地域の皆さんの声を聴きながら、順次、活用に移していきたいと思っています。

**(北海道新聞)**

委員会の中では全体構想というのを示す、示さないという話が出ていたんですけども。

**(阿部副市長)**

それらもすべて含めて、今後の議論ですね、ということで終わっていたかと思いません。

**(北海道新聞)**

基本的にはあそこを一括でこういうふうに使いますということではなくて、順次決まり次第、ということなののでしょうか。

**(市長)**

14ヘクタール、139,000平米ぐらいありますから、それを一括してすべて、ということにはなかなかならないと思います。全体のプランニングはしますけれども、順次、整備できるものについては整備していくことになると思います。

また、全体構想をガチッと決めてこう、というよりは、必要なものから順次立ち上がっていくことになると思っています。

**(北海道新聞)**

特にいつぐらいまでに、という部分では、速やかに、必要なものから進めていくということよろしいでしょうか。

### **(プレス空知)**

今の関連なんですけれども、全体を決めてからではなくて、必要なものから順次、というところから行くと、例えば今の段階で、直近で必要なものってどんなものが想定されるのでしょうか。

### **(市長)**

基本的なあそこの施設の考え方というのは、地域の方の利便性の向上を図るために何が重要かという観点と、一定規模の、大型の公共施設の候補地というようなことを中心に考えていくことになると思います。

それから全体のことを全く考えないで、その都度その都度、やっていくというのではなくて、全体の方向性については、都市計画マスタープランがきちんとありますので、そういうことを踏まえながら考えていくこととなります。

### **(読売新聞)**

今年最後の懇談会ということなので、今年を振り返ってどんな年とか、印象に残ったこととか、来年に向けてどういうことをしたいとか、お話があればお聞かせいただきたいのですが。

### **(市長)**

今年は年明けから、今盛んに気にしている雪の問題は、昨年の冬は7メートルに届かなかったので、それでも補正予算を組んでの対応でしたけれども。新年度が始まって、またすごく慌ただしい1年だったなあ、と感じています。

今年は特に、日本全国どこでもそうでしょうけれども、人口減少というのがこれだけ共通の課題として取り上げた年はこれまでにないのではないのでしょうか。岩見沢市においてもそうです。

去年はスピード重視ということ念頭に置きながら仕事をしてきたのですけれども、今年は質の向上も念頭に置いてやっていきたいということと、一番やはりこれからの人口減少を大きな課題として捉えて、共通認識を持って、これからの岩見沢の活性化戦略をみんなの力で作っていきましょう、という年の初年度だったのかな、という気がしています。そういった意味では、共通認識に立った上で、それぞれの役割を果たせる、そんな取り組みができたのかな、という気がしています。

新年度は、岩見沢版の総合戦略をしっかりとしたものを立てていきたい。それを土台に、次のステップ、まちづくりに入っていきたいと思っています。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)